

イノベーションマネジメント研究科 学習支援計画書（シラバス）

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。（連絡先：虎ノ門事務室 [メールまたは電話]）

※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名	科目コード	単位数	開講期	VOD閲覧
技術標準化要論	Z 141	2 単位	1 期 (前学期)	学内・学外
Essentials of Technology Standardization				
科目分野		課程領域		
技術標準化戦略		イノベーションマネジメント共通科目		
担当教員名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー		
上條由紀子 長野 寿一	—	メールポイントにて随時 メールでの質問、相談も可		

関連している科目(履修推奨科目)

技術標準化政策特論	技術標準化と経営戦略特論	情報通信標準化特論
交渉学要論	国際交渉特論	

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

技術革新のスピードが速まり、経済のグローバル化が進展する今日、「標準化」の重要性が国内外で指摘されている。特に、情報通信・IT分野では、一製品を製造するに当たり多数の技術の組み合わせが必要になることから、技術要素間のインターフェースを提供する役割を果たす「技術標準」の重要性が高まっている。企業にとっては、研究開発の成果たる自社の技術等について、知的財産として保護・活用するだけでなく、国際的な標準化活動を行うことにより、グローバルに市場を獲得し、利益を確保するための戦略が必要となる場合が多々ある。しかしながら、企業にとってなぜ「標準化」が重要なのか、また、どのように「標準化活動」を進めればよいのか、について十分な理解及び対応はなされていないのが現状である。また、「標準化」は国内だけでなく、国際的な側面も有するため、国際標準化をどのように進めていくべきか、も重要な論点である。

本授業では、このような背景を踏まえつつ、標準・標準化とは何か(概念)、標準の分類、標準化の目的及び役割、標準化のメリット・デメリット等を学習した上で、日本における標準化手順及び国家規格(JIS)、国際標準化手順、産業基盤に関する標準化、環境・安全に関する標準化について学ぶ。さらに、標準・標準化の様々な側面として、経済的・法律的側面について概説し、知的財産権と標準化、オープン&クローズ戦略、パテントプールと標準化等のテーマも取り上げながら、標準・標準化全般に渡る基礎的な知識及び標準化活動における考え方(フレームワーク)について学習することをねらいとする。

授業の概要としては以下の通りである。

1. 授業の形式は、社会人を対象とした大学院の講座であることから、講義を通じた基礎知識の修得に留まらず、ケース教材を用いた演習や討議を通じて、実践に活用できる知識や考え方(フレームワーク)、応用能力を修得できるように進める。
2. 授業は、担当教員またはゲスト講師による講義形式を主とするが、受講生の理解度に合わせて、講義テーマに沿ったケース教材を用いて演習・討議を行うゼミ形式で実施するコマも設ける。
3. 授業は、①標準・標準化の基礎知識、②標準・標準化の様々な側面、という2つのテーマに大別して講義を行い、標準・標準化全般に渡る基礎的な知識及び標準化活動における考え方(フレームワーク)について学習する。

到達(修得)目標

標準・標準化活動全般に関する基礎的な知識を修得することを目標とする。標準・標準化の持つ様々な側面とそのダイナミズムを理解し、日本における標準化及び国家規格(JIS)、国際的な標準化手順、産業基盤・環境・安全に関する標準化、知的財産権と標準化、パテントプールと標準化といった基礎的事項を説明できる能力を獲得することを目標とする。

受講対象者

ビジネスや知財経営に資する標準化活動に関心を持ち、標準・標準化に関する基礎的な知識・考え方を修得することに意欲を持つ方(企業における事業戦略立案担当者、標準化活動業務担当者、知財担当者、官公庁の知財・標準化政策立案担当者など)を対象とする。なお、本授業は「技術標準化政策特論」とともに、標準・標準化全般に渡る基礎的な知識の修得を目指しており、本授業で学んだ知識をベースとして「技術標準化と経営戦略特論」、「情報通信標準化特論」、「国際標準化実務特論」において、実務経験に基づいた実践に役立つ知識やツール、事例やノウハウについて学習することが望ましい。さらに、標準化活動の現場で必要とされる交渉能力、コミュニケーションスキル等は「交渉学要論」「国際交渉特論」において学習することが望ましい。

履修上の注意事項やアドバイス

※ 本科目は、2コマ連続クラス(180分×8日間、合計16コマ)で構成する。

※ 欠席が、4コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位取得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 担当する教員は実務家教員とする。

※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標					
知識領域 (Y軸)		ヒューマンパワー (Z軸)		思考プロセス (X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー		Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	○
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー	○	Z2: 独創力		X2: 構想	○
Y3: グローバル法令・実務	○	Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	○
Y4: マネジメント	○	Z4: プレゼンテーション力	○	X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案	○	Z5: 変革推進力		X5: 変革	
Y6: 標準化	○	Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	
		Z7: リーダーシップ力		X7: 評価・検証	
		Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	
		Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	
プラクティカム					
イベント / ケース		教育技法		マテリアル / ツール	
1	各自が出席レポートを作成し、その内容について授業において発表し、全体討議を行う	個別発表・討議		教室、PC (PPT)	
評価の方法					
(総合評価項目と割合)		評価の要点			
平常点(出席点)	10%	毎回、事務室より出席簿を準備する。			
出席レポート	30%	毎回、次週までに、前回の出席レポートを作成し提出する。その内容につき、30%で評価を行う。また、出席レポートの内容について授業にて担当者が発表を行い、全体で討議を行う。発表の内容及び討議への参加につき、20%で評価する。			
出席レポート発表・討議参加	20%	講義で学習した内容をベースに、標準化に関する択一問題(3問)の作成を行い提出する。その内容につき、20%で評価を行う。			
問題作成及び提出	20%	最終回に出される期末演習課題に対して、レポートを作成して提出する。その内容につき30%で評価を行う。			
期末レポート提出及び発表	20%				
合計	100%				
テキスト・参考図書など				備考	
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください					
テキスト (購入が必要)	標準化実務入門テキスト http://www.jisc.go.jp/policy/hyoujunka_text/index.html				必要に応じて、各回資料を配布する。
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	①「コンセンサス標準戦略—事業活用のすべて」(2008) 新宅 純二郎・江藤 学 編著(日本経済新聞出版社) ②「パテントプール概説—技術標準と知的財産問題の解決策を中心として」(2006) 加藤 恒 著 (発明協会) ③「世界市場を制覇する国際標準化戦略—二十一世紀のビジネススタンダード」(2008) 原田節雄著 (東京電機大学出版局) ④「標準化戦争への理論武装」(2007) 山田肇著 (税務経理協会) ⑤「技術力で勝る日本が、なぜ事業で負けるのか」(2009) 妹尾堅一郎著 (ダイヤモンド社) ⑥「オープン&クローズ戦略 日本企業再興の条件 増補改訂版」(2015) 小川紘一著(翔泳社) ⑦「ものづくりの科学史 世界を変えた《標準革命》」(2013)(講談社学術文庫) ⑧「知的財産と標準化戦略」(2015)藤野仁三著(八潮社)				本授業のみならず、科目分野「技術標準化戦略」の履修者にとって有益な参考図書を①～⑧に列挙した。ただし、すべての参考図書を読み切る必要はなく、参考にするべき必要な箇所については、講義において適宜指示する。
参考URL					
日本工業調査会サイト http://www.jisc.go.jp/ 日本規格協会サイト http://www.jsa.or.jp/default.asp 日本規格協会 標準化教材 http://www.jsa.or.jp/stdz/edu/bunya-1.asp 一般社団法人 情報通信技術委員会 標準化教育テキスト http://www.ttc.or.jp/study_std/stdtext_note/					

コマ	学習内容	事前準備・課題	担当者	時間
1.2	オリエンテーション(授業の概要の説明)	特になし	上條	180分
	標準・標準化の基礎知識(その1) 標準・標準化とは何か(概念・定義)、標準・標準化の目的及び役割			
	イベント 講師及び受講生の自己紹介・授業進行説明/講義			
3.4	標準・標準化の基礎知識(その2) 標準・標準化の具体例・標準・標準化の分類、標準化のメリット・デメリット	第1回・第2回出席レポートを提出	上條/ ゲスト スピーカー	180分
	ゲストスピーカーの講義(その1) <標準化の事例紹介>			
	イベント ゲストスピーカー:藤田俊弘氏(IDEC株式会社 常務執行役員技術戦略担当)			
5.6	標準・標準化の基礎知識(その3) 日本における標準化手順及び国際標準化手順(概論)	第3回・第4回出席レポートを提出	長野/ ゲスト スピーカー	180分
	ゲストスピーカーの講義(その2) <環境分野の国際標準化・外国政府への働きかけ・標準化外交>			
	イベント ゲストスピーカー:市川芳明氏(株式会社日立製作所 地球環境戦略室主管技師長)			
7.8	標準・標準化の基礎知識(その4) 国家規格(JISマーク制度等)、日本における標準化の特徴	第5回・第6回出席レポートを提出	上條/ ゲスト スピーカー	180分
	ゲストスピーカーの講義(その3) <安全に関する規格 - ISO/IECガイド51について>			
	イベント ゲストスピーカー:前田育男氏(IDEC(株) 国際標準化・知財推進センター 国際標準化戦略担当)			
9.10	標準・標準化の様々な側面(その1) 標準・標準化の経済的側面、法律的側面①	第7回・第8回出席レポートを提出	上條	180分
	標準・標準化の様々な側面(その2) 標準・標準化の経済的側面、法律的側面②			
	イベント			
11.12	標準・標準化の様々な側面(その3) 産業基盤に関する標準化	第9回・第10回出席レポートを提出	長野/ ゲスト スピーカー	180分
	ゲストスピーカーの講義(その5)			
	イベント ゲストスピーカー:横谷哲也氏(金沢工業大学電子情報通信工学科教授)			
13.14	標準・標準化の様々な側面(その3) 標準化と知的財産権との関係性<パテントポリシー、独禁法>	第11回・第12回出席レポートを提出	上條	180分
	標準・標準化の様々な側面(その4) 標準化と知的財産権との関係性<パテントプールと標準化>			
	イベント			
15.16	期末レポート発表および討議 本授業に対する質疑応答等	第13回・第14回出席レポートを提出/期末レポート提出及び発表	上條/長野	180分
	期末レポート発表および討議 本授業に対する質疑応答等			
	イベント			

※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。
講義収録は、特別講師を招く場合など、内容によっては収録できない場合があります。